

河川漁場基礎調査

河川定期観測調査

森脇晋平・川島隆寿・山根恭道

昨年度に引き続き、県内の一級河川について環境調査を実施した。

調査方法

1. 調査地点

図1、表1に示した11地点で実施した。

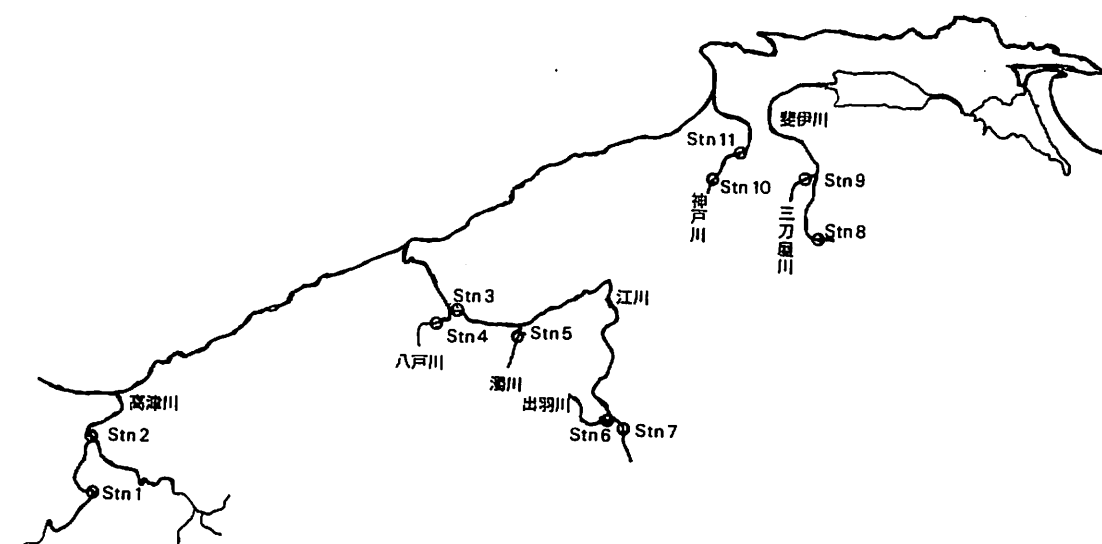


図1 調査点

2. 調査項目

調査項目は、水温、pH、SS、石への砂泥付着状況、アユのハミアト、石の付着物についてその沈殿量、湿重量、乾重量および灼熱残渣量、底生生物（主に水生昆虫）である。なお、各調査項目の測定方法については「江川アユ生息環境調査」に準じて同一方法で行なっているので、詳細は昭和60年度の事業報告書を参照されたい。

表1 調査地点

stn.	調査地点名	河川内の位置	試料採集位置	河川名(水系)
1	日 原	右 岸	ハヤセ	本 流 (高津川)
2	横 田	左 岸	"	"
3	桜江大橋	"	"	本 流 (江 川)
4	あゆみ橋	"	"	八 戸 川 (")
5	瀬 越	"	"	濁 川 (")
6	昭 和 橋	右 岸	ヒラセ(護岸底)	出 羽 川 (")
7	作 木	"	"	本 流 (")
8	温 泉	"	ハヤセ	" (斐伊川)
9	地 王 橋	"	ヒラセ	三刀屋川 (")
10	佐 田	"	"	本 流 (神戸川)
11	朝 山	左 岸	"	" (")

3. 調査期日

平成2年(1990)	4月24日～4月26日	5月14日～5月16日
	5月30日～6月4日	7月9日～7月11日
	8月1日～8月3日	9月10日～9月12日
	10月17日～10月19日	11月8日～11月15日

結 果 及 び 考 察

水質、石の付着物の状況、底生生物の調査結果を付表1～16に示した。

水温は各河川とも本流は4月の11～14℃から7～8月の25～28℃台に上昇し、その後11月の10～13℃台に低下する。今年は昨年と比較して春先は低水温の傾向であり、夏から秋にかけてはやや高い傾向が窺えた。pHは6.5～7.4の間を変動した。昨年と比べ変動の範囲は小さい。SSはほぼ10ppm以下であった。石の付着物のうち、沈殿量の平均値が最も大きかったのは9月で10.7ccであった。逆に、最も小さかったのは6月で5.6ccであった。全般にみれば、春から初夏に少なくて、夏以降増加する傾向がある。湿重量の最も大きい時期は4月と11月でその間の時期は小さい傾向がある。沈殿量とは対応しないが、アユの餌としての付着藻類の季節変動、補食量の変動と関連があるものと思われる。こうしたことは、灰分量の変動とも密接に関連してくると思われる。